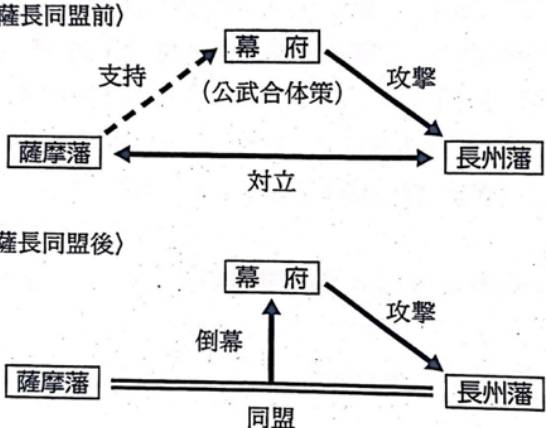


5月11日～5月15日分【第3週】 解答例

※あくまでも解答例です。必要に応じて自分の解答を修正するなど、学習内容の理解に利用してください。

時	分野	教科書のタイトルと該当ページ	解答例
9 時 間 目	歴史	<p>【5章】 6 内と外の危機 (P142、143)</p>	<p>[ステップ1] ロシア イギリス アメリカ フランスなど</p> <p>[ステップ2] 「内」の危機は幕府政治や藩政に対して抵抗・批判が相次ぐようになったこと。幕府や藩はそれらを抑え込んだが、改革に失敗したり、法令を撤回したりするなど、その力は弱まった。「外」の危機は、外国船がしきりに日本の沿岸に接近するようになったこと。幕府は外国船を砲撃して追い払う方針を取り、海沿いの防備を固めた。↩</p>
10 時 間 目	歴史	<p>【5章】 7 たった四はいで夜も眠れず (P144、145)</p>	<p>[ステップ1] 日本に滞在するアメリカ人の犯罪はアメリカの領事がさばき、日本に裁判権がないこと（治外法権を認めていること）。輸入品の関税について日本に関税率を決める権利がなく、相互で協定して定める協定関税であったこと（関税自主権がないこと）。↩</p> <p>[ステップ2] 日米修好通商条約が結ばれたことにより、外国との貿易が始まった。しかし、外国に治外法権を認め、日本に関税自主権がないなど、条約には日本にとって不利な内容が含まれていた。また、幕府は条約を結ぶときに諸大名に意見を求めたり、調停に報告したりしたため、幕府の力が弱まっていることを諸大名に印象づけることになった。↩</p>

11 時 間 目	歴史	【5章】 8 新たな政権を目ざして (P146、147)	[ステップ1] 国産の生糸が大量に輸出され、外国産の綿糸・綿織物が輸入されリウなど活発な貿易が行われた。一方で、国内の綿織物業が圧迫されたり、生糸の品不足が起こったりと、産業・流通への影響は大きかった。また、日本の金貨が海外に流出して、物価が不安定になり、民衆は不満を高めた。← [ステップ2] 参考：図でまとめたもの 
12 時 間 目	歴史	【5章】 9 御政治売り切れ申し候 (P148、149)	[ステップ1] 開国や内線の影響（品不足・物価上昇と不安定化・外来の伝染病の流行・世相の険悪化など）は社会不安を増大させ、「はやり神」や「おかげ参り」や新しい宗教の流行、世直しを求める一揆や打ちこわしの増加、「ええじゃないか」の集団的な騒動などの民衆の動きにつながった。← [ステップ2] 幕府は社会の動きや民衆の不安に対して有効な対策を打ち出すことができず、維新を弱めていった。← 薩長同盟に見られるように、統幕は <u>が</u> 力を強めていったことで、幕府のちからが相対的に弱まった。 など←